

# リーディングDXスクール事業 【実践事例一覧】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

| 取組内容 | 実践事例の概要  | 様式         |
|------|--|------------|
| ①    | <p><b>「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」</b><br/>           • 単線型授業から複線型授業への変革、デジタルポートフォリオの作成などの授業改善の取組。</p>                       | B-1<br>B-2 |
| ②    | <p><b>「生徒の情報活用スキル向上を目指した朝学習の充実」</b><br/>           • 朝の短学活前の時間を利用したICTスキルアップ（タイピングスキルやデジタルシチズンシップ教育など）のための活動を設定。</p>               | B-3<br>B-4 |
| ③    | <p><b>「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実と自律的な学習に向けた取組」</b><br/>           • 家庭学習の選択肢を増やすとともに、学びを自己調整する生徒を育てる取組。</p>                            | B-5        |
| ④    | <p><b>「地区小・中学校の情報共有と研修機能を兼ねた同一チーム作成とその運用」</b><br/>           • 3小1中の情報を共有するチームを作成し、研修を行ったり、研究授業を見合ったりするなどクラウドを活用した小中連携のあり方を模索。</p> | B-6<br>B-7 |
| ④    | <p><b>校務全般・保護者連絡・小中連携事務作業の徹底的な効率化</b><br/>           • 情報共有、共同編集、アンケート機能等、クラウドの利点を生かした業務改善。</p>                                    | B-8<br>B-9 |
|      |  |            |
|      |  |            |
|      |  |            |
|      |  |            |
|      |  |            |

# リーディングDXスクール事業 【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

## 【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用

### 学び方を自己選択させる（個別最適な学びへ）

4月の社会科の授業風景（写真上）である。授業の中に個別最適な学びをどのように位置付けるのか、日々考え実践を行なってきた。知識を教え込むというスタイルから、生徒自身が好きなタイミングで情報にアクセスし、多様な情報源を基にして協働的に課題に向かっていく姿になるための授業を目指した。夏休み以降の授業風景（写真中、下）である。Webページや教科書、資料集など多様なリソースにアクセスし自分の考えを伝え合い、練り上げていく姿へと変わってきてている。

他の教科でも、初めは「教師の指示でタブレット端末を使わせる」という状態であったが、次第に生徒自身の好きなタイミングでタブレット端末を使用するようになってきている。Teamsで配信された情報や協働編集したエクセルデータなど、生徒にとって必要な情報にアクセスする習慣が身に付いてきている。

課題は「Webページにある説明や誰かの回答をコピー＆ペーストして終わってしまう課題設定になっていないか」である。情報にアクセスし自己の考えをもち、仲間と話し合い、練り上げていく中で、自分なりの答えを見付け出しアウトプットしていく過程を目指していきたいものである。課題の設定、学習形態の自己選択、学ぶ環境の整備など課題はたくさんあるが、もっと「子供に委ねてみる」ことで変化を楽しみたい。

「教師がマインドセットを変えること」と「子供が教わるから自ら学ぶ」というマインドセットの転換をすること」同時に進っていく必要がある。



4月の授業風景



クラウドに保存したまとめや他のグループの考えを参照していたり、教科書から情報を得たりしている様子



# リーディングDXスクール事業 【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

## 【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用

### 学びをデジタルで記録し、参照し合う（協働的な学びへ）

授業の際の振り返りをデジタルに置き換え、参照し合う実践に力を入れてきた。写真上は体育科の振り返りシートである。動画で記録したデータを貼り付け、気付いたことや話したことなどを文章で蓄積している。

自分の学びを俯瞰でき、成長が視覚的にも分かることは、自ら学びに向かっていくこと、自己調整的に学ぶ姿へとリンクしていくことになるのではないかだろうか。

美術科では、以前から個別最適な学びに取り組んできた。授業のめあてや評価に関わるポイントなど事前にクラウドで共有し、指定された時間内であれば進め方は個人に委ねている。美術室の環境整備に力を入れ、誰でもいつでも必要なツールにアクセスできたり、表現方法の試行ができる環境を整えた。学習形態も個人に任せている。

振り返りは、パワーポイントを使用し、1時間ごとの学びを写真や動画とともに文章でも記録している。最終的には、それらをまとめて全体に向けてプレゼンテーションすることになっている。毎時間の振り返りは、他者参照でき、次時のモチベーションアップや更なる探究につながっていくと考えている。

他者参照ができるようになってから、振り返りの質が高まったを感じている。

| 単元目標        |  | リズミカルな走りでスムーズに走り、タイムを縮めよう                             |  |                         |
|-------------|--|---|--|-------------------------|
| 時           | 学習群組                                       | 課題に対する自分の答え   | 振り返り(出来たこと・良かったこと・次の課題・動きのポイント)                                | 本時の走り(結果)               |
| 1           | ハーハード走で事なごと はなんらかですか?                      | 歩幅を合わせてリズムよく走ること                                      | 飛び越えるために高く歩き歩幅を合わせることが大切だと思った。10歩。在...<br>高く歩くとタイムはどうなりそう?     |                         |
| 2           | 誰が位置 はどの人のところに位置しているか? なんらか?               | 低い体勢で飛ぶこと   | またために無い体勢を意識してあまり近くで飛ばないと...<br>ここがですね                         |                         |
| 3           | ハーハードを走る要領は どうですか? 一定と上下手に目直して→            | 体を前に少し斜めに倒して超えるよと ううか?                                | 足に手を付けるようにハーハードを飛び越えようとしています。歩幅が大きめにならないでさああので歩幅を合わせる練習を頑張ります! |                         |
| 4           | スムーズに走るには どうですか? ハーハード飛ぶのやり方 はどうしたらいいだらうか? | 歩幅を合わせること   | 足に手を付けるようにハーハードを飛び越えるようにしたら、タイムが少し縮むと思いました。<br>                |                         |
| 5           | まとめの走りをしよう 自由の課題に合わせて                      | 歩幅と姿勢を低くすること  | ハーハードのギリギリを飛び越えるようにしたら、タイムが少し縮むと思いました。<br>                     |                         |
| 単元を通しての振り返り |  | うまく飛び越えるには、タイムを速くするのも大切だけど姿勢を低くすることも飛び越えるのにいいました。<br> | 50Mタイム<br>10.32 - 8.56 = 1.76<br>good!                         | 50Mタイム<br>8.56<br>good! |

(体育科の振り返りシート)

2時間目  
→今はやること  
→今日の目標  
→今日の目標達成度  
→今日の目標達成度

3時間目  
→今はやること  
→今日の目標  
→今日の目標達成度  
→今日の目標達成度

4時間目  
→今はやること  
→今日の目標  
→今日の目標達成度  
→今日の目標達成度

5時間目  
→今はやること  
→今日の目標  
→今日の目標達成度  
→今日の目標達成度

(美術科の振り返りシート パワーポイント)

絵画表現と色彩で発見する  
おもしろいこと

色彩表現で  
絵画表現で  
面白いことを  
図で考えれる

絵画表現の自由があつた  
方法で考える  
3方法で考える

絵画表現に自信  
持てる  
3方法で考える

絵画表現による  
表現力の育成  
3方法で考える

絵画表現による  
表現力の育成  
3方法で考える

絵画表現による  
表現力の育成  
3方法で考える

絵画表現による  
表現力の育成  
3方法で考える

美術科の振り返りを参照できるようにしている

## 【取組内容②】生徒の情報活用スキル向上を目指した朝学習の充実

### タイピングスキル向上から始まった取組

毎週木曜日の朝は「ICT朝活」と称して、全校生徒が情報活用能力向上を目指して活動している。本校生徒会活動の中の報道委員会にICT部署を創設して生徒主体でICTの活用を進める活動場面を設定した。その一つがICT朝活である。当初はタイピングスキルの向上を目的として取り組んできたが、生徒のレベルも上がってきたことから、ショートカットキー講座やデジタルシチズンシップ教育に関する講座など、15分～20分で学べるもの企画している。

NHK for Schoolの番組を視聴してその内容を考えたり、クイズアプリも活用したりすることで、全校生徒が楽しみながら集中を持続して取り組める工夫もしている。

### 毎週のワクワク感とスキルアップ

右の動画は、授業でよく使うショートカットキーを確認するテストの様子である。ICT朝活にゲーミフィケーションを取り入れて、ワクワクする時間を作りだしている。

ときには、学級全体で「フェイクニュース」について考える時間をつくり、NHK for School の番組を活用して取り組んでいる。

情報モラルばかりではなく、ICTの可能性も知ってもらえるように、バランスよく委員会の生徒と一緒に考えながらプログラムを組んでいる。

この朝活のような、学校全体で情報活用能力を高める時間措置を、地域の学校でも提案した。今年度、地域にある3つの小学校でタイピングコンテストに取り組む予定である。



タイピング練習の様子



グループでクイズに答える様子

The screenshot shows the NHK for School website's quiz section. At the top, there are navigation links for '先生向け' (Teacher), 'おうちで学ぼう!', '先生向けTOP', '先生向けTOP', 'おうちで学ぼう!', and a search bar. Below that is a purple banner with the text 'アット・ミディア' and '@media'. The main content area displays a quiz interface with Japanese text and a timer. On the right side, there is a sidebar with information for '小学校4~6年・中学生' (Grades 4-6, Junior High School Students) and a schedule: '月曜日4:30~5:00放送' (Monday 4:30~5:00 Broadcast) and '火曜日9:20~9:30' (Tuesday 9:20~9:30). At the bottom, there is a message from the teacher: 'クラウド・ミク・トシヤ先生からのメッセージ動画はこちら! #1920秒くらいから始まります' (Cloud・Miku・Toshiya sensei's message video here! It starts around 1920 seconds.) and the text 'NHK for Schoolより' (From NHK for School).

# リーディングDXスクール事業 【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

## 【取組内容②】生徒の情報活用スキル向上を目指した朝学習の充実

### 校内から校外とのつながりへ

タイピングスキル向上を客観的に把握する取組として、校内タイピングコンテストを実施した。各クラスの代表選手を選び、クラス対抗戦で行った。各クラスにリモートで接続し、代表選手の打ち込んだ文字がリアルタイムに映し出され勝敗が分かるようにして行った。e-スポーツのような感覚で非常に盛り上がった。

また、生徒の要望を受けてネット上での学校対抗戦も実施した。リモート機能を使って、生徒同士で打ち合わせを行い、オープニングムービーを作成する生徒や、司会の生徒など役割分担を決めた。

生徒の主体性が高まっただけでなく、情報活用能力も自然と高まり、ICTの可能性を大いに感じる取組となった。

### スキルアップから生徒の創造性の高まりへ

情報活用能力が高まつてくると、生徒から「こんなことをしてみたい」という声が上がつてくるようになってきた。生徒会では、これまで紙で集めていた意見箱をデジタル化し、その意見に答える場としてラジオ番組を制作。今後、テレビ番組へ発展していく予定である。また生徒会役員選挙では、ポスター作成のほかに、立候補者の演説を動画で撮影し、政見放送のような形で全校にシェアすることにも取り組んでいる。

中学校の生徒会が中心となって、地区にある3つの小学校とリモート会議をしている。小学校の児童会と連携し、地域貢献プロジェクトの説明を行なったり、メディアバランスの課題を共有し、その解決策を考えたりする活動にも取り組んでいる。



学校対抗タイピングコンテストのポスター



地域の小学校とリモートでつなぎ会議している様子

## 【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実と自律的な学習に向けた取組

### 端末の持ち帰りで、広がる家庭学習の選択肢

タブレット端末は、日常的に持ち帰りを行っている。持ち帰りの定着を図るために「持ち帰る必要性は何か、どんなことができるのか」職員で検討を重ね、次のような取組をした。一つは、家庭学習の選択肢を増やすこと（AIドリルを可にすることなど）にした。授業の課題として、事前に家で調べ学習を行わせるケースや、授業のまとめを家庭学習として行わせるなど端末の活用を促した。もう一つは、学校通信や学年通信などをTeams上で配付することにした。家庭でタブレット端末を開いて情報を確認することを学級・学年・学校全体で意識的に取り組ませた。

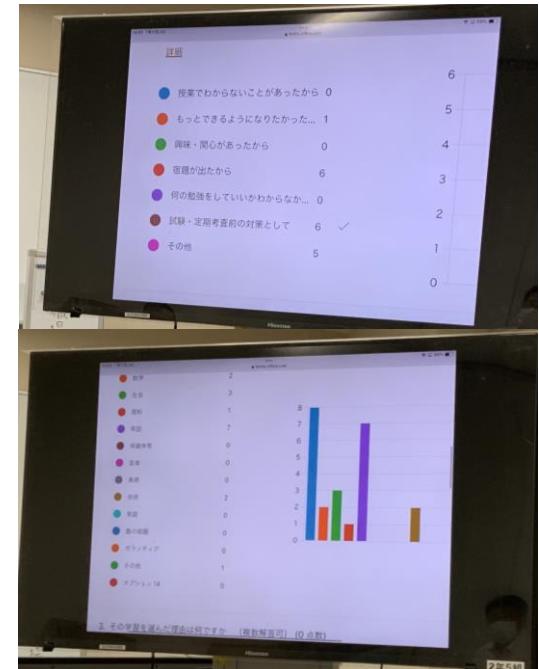
取組の結果、家庭でも活用が進み、家庭学習や課題の作成、情報の確認などに使うことが習慣となってきている。現在ではタブレット端末の持ち帰りも定着してきている。

### 自立した学習者になるために

家庭学習の習慣を客観的に振り返り、自分に必要な学習を組み立てていく力（自己調整学習）を養う目的で、フォームを活用した家庭学習リフレクションを実験的に行なっている。毎朝、家庭学習の内容（教科、内容、理由時間など）を打ち込んでいくものである。二枚の写真のように、自分が取り組んできた学習内容がグラフになり何をどれだけ、何のためにやったのかが分かるようになっている。このグラフと家庭学習のノートやAIドリルの内容等を基に、教員と面談し、現在の課題や今度どのように取り組むかを考えていくようにしている。

やらされる家庭学習（ノートを埋めるだけ、答えを写すだけの学習）ではなく、必要感のある学習、自己を成長させるための学習になるように自立的に思考・判断していくことになると考えている。

※観察で伺った世田谷区立芦花中学校の取組を参考にしています。



# リーディングDXスクール事業 【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

## 【取組内容④】地区小・中学校の情報共有と研修機能を兼ねた同一チーム作成とその運用

### 中仙地域LDXに向けて

本地域これまで中仙地区教育研究会（以下中仙教）という組織の中で、3つの小学校と1つの中学校が共通実践を設けたり、授業を見合う会を随時開催したりして、授業力向上に取り組んできた。この重要な教育リソースをDX化することで、より密度の濃い、スピード感のあるシームレスな研究ができるのではないかと考えた。さらには、生徒・児童の交流もDX化することで、中1ギャップの軽減を図ることも考えた。

まず初めに、3つの小学校と1つの中学校を一つのチームにまとめることに取り組んだ。意識レベルでのつながりであった「中仙教」という組織を一つのチームに取り込むことで、物理的にもつながった俊敏な共有プラットフォームにすることができた。そこでは以下の3つを合い言葉とした。

- ①まずは、できることから ②できたことを共有 ③みんなでやってみる

ICT活用の取組を、以下のように3つに整理し、さらにそれらをICT活用により繋いでいくというイメージで進めることにした。関連する項目をそれぞれの部署に分けて取り組むことにした。

- 個別最適な学び・協働的な学びに関するることは「研究部」
- 校務の効率化に関することは「教頭・教務部」
- デジタルシチズンシップ教育に関することは  
「児童会・生徒会担当」



# リーディングDXスクール事業 【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

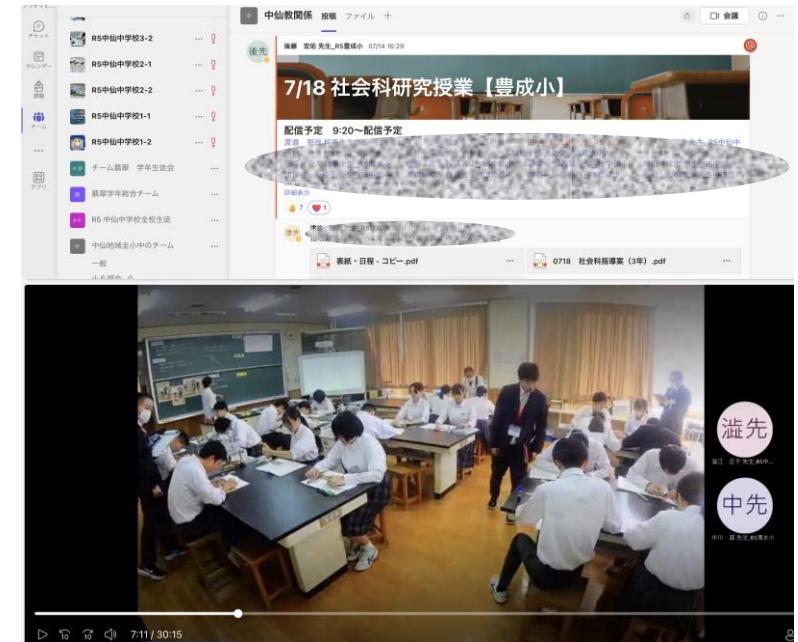
## 【取組内容④】地区小・中学校の情報共有と研修機能を兼ねた同一チーム作成とその運用

### 中仙地区小中の合同研修

「中仙教」の特色の一つとして、小中の授業を見合う会がある。これまでには、実際に学校に出向いて参観していたが、地区内の教員がもっと気軽に参加できるよう、また、新しく地区に異動になった先生方の研修機会にもなることを考えて、授業をリモートでつなぐことに取り組んだ。指導案も、地区内の教員は誰でも見られるようクラウド上に保存している。授業を録画することで当日時間調整ができなかった先生方も後で見ることができるようとした。校種間の様子を知ることや、今後入学してくる子どもの姿、卒業後の姿、学習内容の系統性や総合的な学習の時間の取組の情報交換など、それぞれの学校の教育活動について学校間の情報の共有がスムーズになり、業務改善につながったと感じている。

下の写真は学校DX戦略アドバイザーの先生を招いて行った研修会の様子である。対面とリモートのハイブリッド型の研修で、クラウド上で意見の出し合いや練り合いも試みた。

本地区的教職員が一堂に会して研修をするのは初めてであったが、このようにハイブリッドにすることで開催しやすくなった。また、研修の過程や書き出した内容もデータとして残り、振り返ることもできる。地方にある学校間連携のモデルとしても期待できるのではないだろうか。



地域の小中全職員のチーム・研究授業のリアルタイムシェア



地域の全職員参加の研修会の様子

# リーディングDXスクール事業 【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

## 【取組内容④】クラウドを活用したリアルタイムのクマ目撃情報の共有と注意喚起

### Googleマップの作成研修とその活用

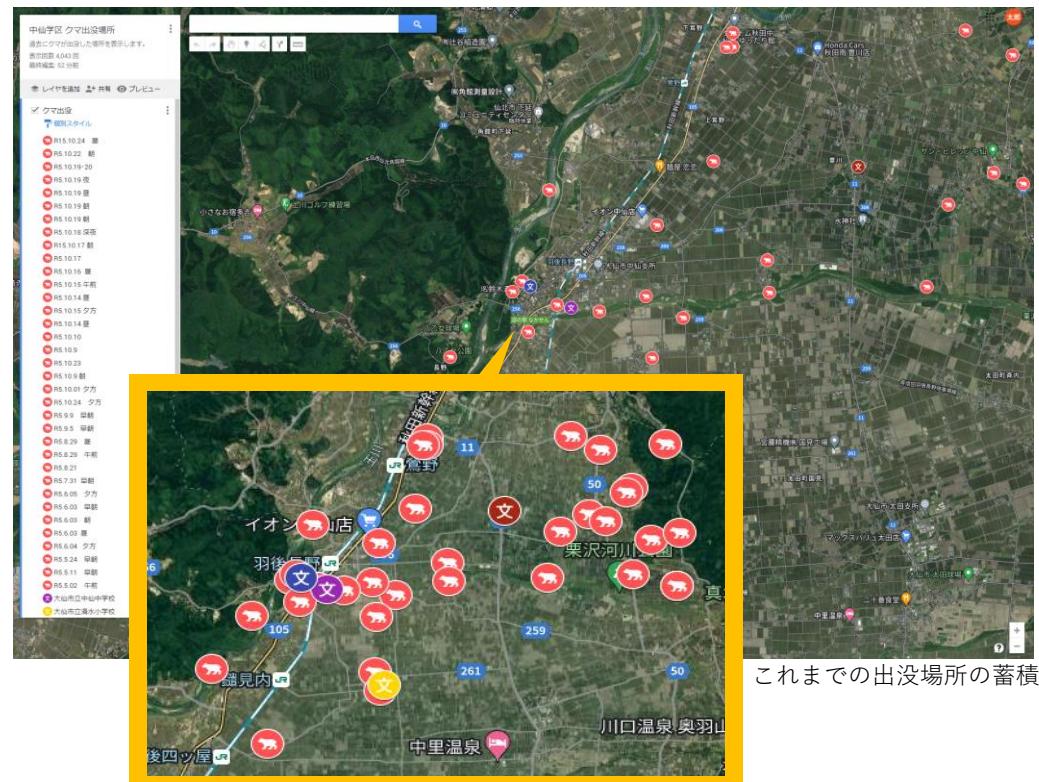
PTA主催の講演会にICT関連企業の方を招き、生徒、保護者、教員でGoogle Mapsを使った研修を行った。当初は、通学路の危険箇所をGoogle Mapsに反映させ、情報を共有したが、この機能を活用し、山間部特有の課題である熊被害の防止対策としてリアルタイムで目撃情報を共有し、注意喚起を行うシステムをとった。学校に寄せられた情報は教頭がすぐにアップロードして、保護者連絡メールにリンク先を添付、生徒用のチームに流すようにして、隨時、最新の出没箇所を確認できる。

こうした危険箇所や注意情報、地域住民からの連絡など、視覚的に分かりやすくするため、また情報の蓄積の目的も含め、クラウドを活用して整理することの有用性を感じた。

生徒が学校生活の中で「このような活用もできる」という経験を重ねることでさらに発展した活用法を見い出すことを期待している。



PTA講演会での研修の様子



# リーディングDXスクール事業 【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

## 【取組内容④】校務全般・保護者連絡・小中連携事務作業の徹底的な効率化

### 情報共有・共同編集・Formsの活用による二重入力の防止と業務プロセスの改善

年間計画のベースファイルを作成、必要な情報を職員で共有かつ共同編集を行い、追加・変更などを適宜入力、常に最新の情報を保持。

ベースとなるデータを他シートで共同編集することで、二重入力、転記ミス等を防ぎ、月・週・週・部活動等の計画、休暇簿、日誌の作成を効率化。

Formsを活用し、職員の出張伺を電子化、事務担当の二重入力を回避。

コピー関連経費（R4・R5上半期比較）

コピー料金18%減・コピー使用枚数38%減

### 欠席連絡・感染症対応・生徒の悩み相談への対応と保護者アンケート等、保護者との連絡業務を効率化

保護者がFormsで欠席連絡をすることにより、朝の電話応対数が飛躍的に減少した。また、感染症流行時には、出席停止管理一覧表を職員で共同編集し、情報を共有、流行を見極め、学級閉鎖の判断データとした。

長期休業中は生徒の健康観察Formを作成し、休み期間の生徒指導面での相談に対応している。

保護者アンケートやPTA学習参観日の出欠連絡をFormsで実施。

### 小中連携業務の効率化

ファイル共同編集により、小中合同実施数行事やALT派遣、入学関係事務等を効率化、学区内クマ出没マップ（様式B-8）を作成、学区内で危機管理情報を共有した。

#### R 5 出張伺

##### 出張伺への入力フォーム

3. 用務・会議名（省略せず全て記入。）



回答を入力してください

|      |           |
|------|-----------|
| 2年1組 | 欠席        |
| 2年1組 | 遅刻        |
| 3年2組 | 欠席        |
| 3年1組 | 欠席        |
| 2年2組 | 欠席        |
| 2年1組 | 遅刻        |
| 2年2組 | その他（相談など） |

#### 出張伺入力フォーム

欠席連絡(職員室大型モニターでも情報を共有)

| 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 |
|---|---|---|---|---|---|
|   |   |   |   |   |   |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|   |   |   |   |   | 停 |
| 早 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 早 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 停 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

| 赤文字          | 土 | 日  | 月  | 火  |
|--------------|---|----|----|----|
| 1-1          | 1 |    | 3  | 2  |
| 1-2          | 7 | 7  | 8  | 8  |
| 2-1          | 0 | 0  |    |    |
| 2-2          | 0 | 1  | 1  | 1  |
| 3-1          | 0 | 0  |    |    |
| 3-2          | 0 | 0  |    |    |
| コロナ罹患<br>生徒計 | 8 | 10 | 12 | 11 |

感染症個人データ

感染症学級データ

感染者推移データ

